5

〔令和８年１１月２４日〕

令和８年度１２月補正予算（案）の概要

１　一般会計

今回の補正予算は、当初予算を年間予算で編成しておりましたので、制度改正に伴うもの又は緊急を要する経費など必要最小限の補正措置を講じております。

その主なものは、給与改定等に伴う職員人件費の補正、川副中央幹線道路整備事業、豪雨災害関連経費などであります。

その財源については、国有提供施設等所在市町村助成交付金、市債、市税等で措置し、繰入金により収支の調整をいたしております。

今回の補正予算の総額は約７億２００万円で、補正後の予算総額は約１，２２５億１，１００万円となり、前年度同期に比べ、３．７パーセントの増となります。

（参考）予算額の前年度の同期との比較　　（単位　千円）

区　　分	当初予算額	現計予算額	１２月補正額	補正後の額	最終予算額
令和８年度	119,800,000	121,808,577	702,177	122,510,754	
令和７年度	113,200,000	116,006,643	2,078,987	118,085,630	121,492,657
伸　率　（%）	5.8	5.0		3.7	

補正予算の総括表

歳入款別比較表　　（単位　千円，％）

区　　分	現計予算額	補正額	補正後の額	構成比
市　　税	34,821,585	210,000	35,031,585	*28.6*
地方譲与税	780,000		780,000	*0.6*
利子割交付金	60,000		60,000	*0.0*
配当割交付金	200,000		200,000	*0.2*
株式等譲渡所得割交付金	300,000		300,000	*0.2*
法人事業税交付金	560,000		560,000	*0.5*
地方消費税交付金	6,700,000		6,700,000	*5.5*
ゴルフ場利用税交付金	38,000		38,000	*0.0*
環境性能割交付金	6,000		6,000	*0.0*
地方特例交付金	341,000		341,000	*0.3*
地方交付税	20,200,000		20,200,000	*16.5*
交通安全対策特別交付金	50,000		50,000	*0.0*
分担金及び負担金	202,671	△ 7,475	195,196	*0.2*
使用料及び手数料	1,765,889		1,765,889	*1.4*
国庫支出金	26,468,704	14,095	26,482,799	*21.6*
県支出金	12,869,114	64,985	12,934,099	*10.6*
財産収入	492,616		492,616	*0.4*
寄附金	1,396,520		1,396,520	*1.1*
繰入金	2,919,831	△ 269,110	2,650,721	*2.2*
繰越金	1,555,985		1,555,985	*1.3*
諸収入	2,914,262	81,304	2,995,566	*2.4*
市　　債	7,166,400	228,500	7,394,900	*6.0*
国有提供施設等所在市町村助成交付金		379,878	379,878	*0.3*
歳入合計	121,808,577	702,177	122,510,754	*100.0*

歳出性質別比較表　　（単位　千円，％）

区　　分	現計予算額	補正額	補正後の額	構成比
人件費	17,030,536	402,602	17,433,138	*14.2*
物件費	15,253,850		15,253,850	*12.5*
維持補修費	2,478,487		2,478,487	*2.0*
扶助費	37,587,025	7,974	37,594,999	*30.7*
補助費等	9,157,060	54,527	9,211,587	*7.5*
投資的経費	14,223,186	103,247	14,326,433	*11.7*
積立金	2,411,222	22,140	2,433,362	*2.0*
投資及び出資金	31,015		31,015	*0.0*
貸付金	730,000	200,000	930,000	*0.8*
繰出金	13,416,306	1,481	13,417,787	*11.0*
公債費	9,252,406	△ 89,794	9,162,612	*7.5*
予備費	237,484		237,484	*0.2*
歳出合計	121,808,577	702,177	122,510,754	*100.0*

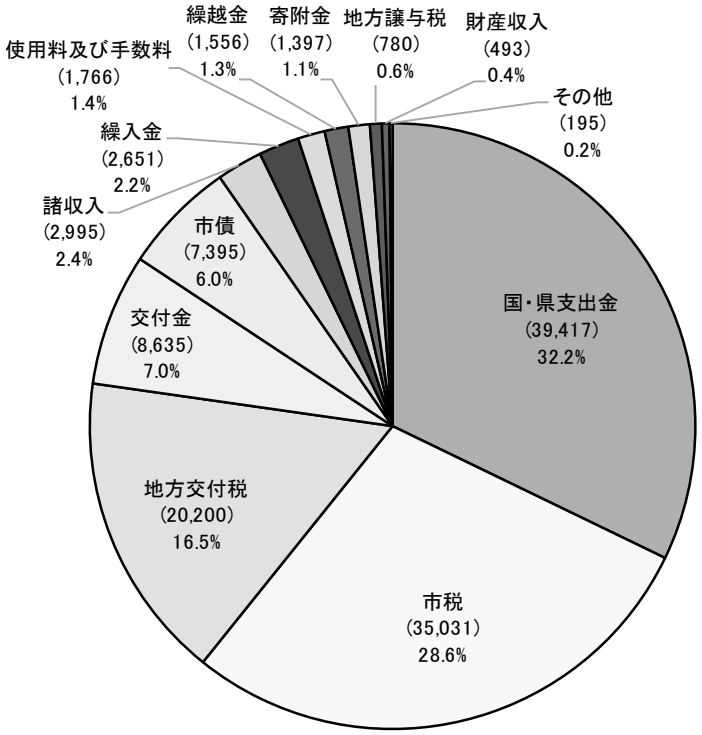
※端数処理のため構成比合計が一致しない場合があります。

◎補正後の一般会計の状況

（単位　百万円）

【歳入】

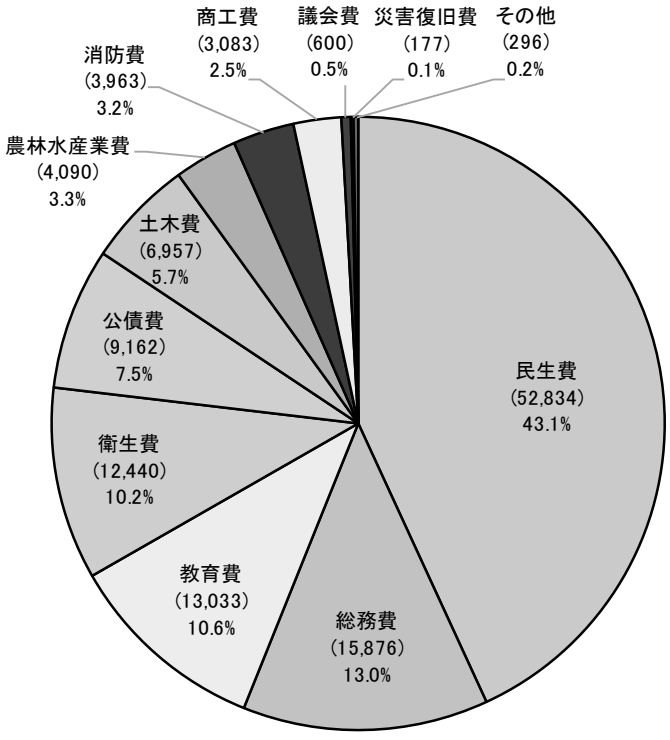
〔歳入総額　1,225億11百万円〕



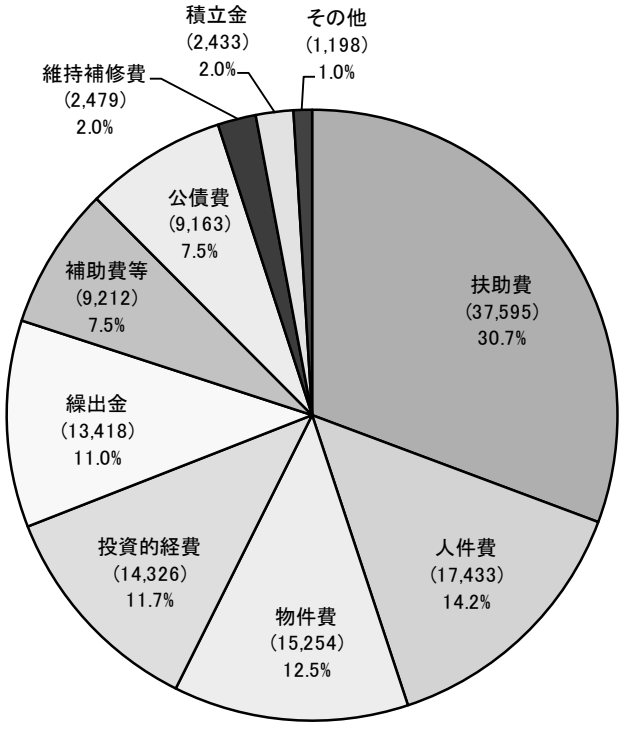
【歳出】

〔歳出総額　1,225億11百万円〕

≪款別≫



≪性質別≫



※端数処理のため構成比が一致しない場合があります。

２　特別会計

（単位 千円）

会　　計	現計予算額	１２月補正額	補正後の額	備　　考
国民健康保険	25,700,681	4,224	25,704,905	・給与改定等に伴う職員人件費の補正 ・保険税還付金の増
国民健康保険診療所	140,747	980	141,727	・給与改定等に伴う職員人件費の補正

３　企業会計

（単位 千円）

会　　計	現計予算額	１２月補正額	補正後の額	備　　考
自動車運送事業	（収益的収支） 事業収益 1,335,712 事業費 1,373,661	 14,243	 1,335,712 1,387,904	 ・燃料費の増
水道事業	（収益的収支） 事業収益 4,528,744 事業費 4,278,298	 15,392 14,255	 4,544,136 4,292,553	 ・熊本地震への災害派遣費用の求償に伴う雑収益の増 ・熊本地震への災害派遣に伴う人件費の増など
	（資本的収支） 資本的収入 673,202 資本的支出 2,131,244	 1,075	 673,202 2,132,319	 ・建設改良費の増
下水道事業	（資本的収支） 資本的収入 4,053,993 資本的支出 5,854,136	 12,000 12,000	 4,065,993 5,866,136	 ・国庫補助金の追加配分による増など ・建設改良費の増
富士大和温泉病院事業				・企業債（経営改善推進事業）の借入れに係る補正

主な歳入

○ 市税 …… ２億１，０００万円
法人市民税

○ 市債 …… ２億２，８５０万円
地域総合整備資金貸付事業債、農地・農業用施設災害復旧事業債等

○ 国有提供施設等所在市町村助成交付金 …… ３億７，９８８万円

主な事業

★は新規事業

ページ

【総務部ほか】

☆　職員人件費 …… ４億　　５５９万円　　－

給与改定等に伴う職員及び会計年度任用職員の人件費の補正　　（補正後　１７１億　　５４８万円）

【政策推進部】

★　北部地域情報通信基盤整備支援事業 …… 6

民間事業者が行う情報通信インフラ（光ファイバ網）整備に対する負担金

・北部地域情報通信基盤整備支援事業負担金

（令和８年度から令和１０年度までの債務負担行為限度額　５億２，３００万円）

【政策推進部ほか】

★　市有施設予約システム再構築事業 …… 7

市有施設予約システム、公民館予約システムの統合・再構築に要する経費

・市有施設予約システム再構築委託料

（令和８年度から令和９年度までの債務負担行為限度額　３，９６０万円）

【経済部】

★　地域総合整備資金貸付事業 …… ２億円　　－

中心市街地の賑わい創出に資するホテル整備を行う民間事業者への無利子融資に要する経費　　（補正後　２億円）

【農林水産部】

★　豪雨災害関連経費 …… ９，６１７万円　　－

６月豪雨及び７月豪雨災害に係る災害関連経費　　（補正後　９，６１７万円）

〔繰越明許費〕

【建設部】

☆　川副中央幹線道路整備事業 …… １億５，０００万円　　－

有明海沿岸道路川副ＩＣ（仮称）へのアクセス道路となる市道川副中央幹線の整備に要する経費　　（補正後　７億１，８７０万円）

〔繰越明許費〕

【こども未来部】

★　こども・子育てＡＩ相談事業 …… 8

生成ＡＩを活用した相談システムの導入に要する経費

・こども・子育てＡＩ相談業務委託料

（令和８年度から令和１０年度までの債務負担行為限度額　１，１８８万円）

【選挙管理委員会事務局】

☆　県議会議員選挙執行経費 …… －

任期満了に伴う令和９年４月執行の県議会議員選挙に要する経費

（令和８年度から令和９年度までの債務負担行為限度額　７，２３４万円）

〈 参 考 〉

〇基金年度末残高

（単位　百万円）

年度	財政調整基金	減債基金	公共用施設建設基金	廃棄物処理施設建設基金	合併振興基金	その他	合計
Ｒ７	7,638	4,087	2,490	537	781	7,053	22,586
Ｒ８	7,544	4,209	2,501	539	781	6,803	22,377

※Ｒ７は年度末残高、Ｒ８は１２月補正後予算ベース

〇地方債年度末残高

（単位　百万円）

年度	年度末残高
Ｒ７	84,430
Ｒ８	85,030

※Ｒ７は年度末残高、Ｒ８は１２月補正後予算（繰越予算を含む。）ベース

（単位：千円）

事業名	【新規】北部地域情報通信基盤整備支援事業≪債務負担行為≫	部名	政策推進部
		課名	デジタル推進課

補正額	0	財源	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源

総合計画	10　行政経営	OPENなしせい（市政・姿勢）で挑むまち	双方向のコミュニケーションによるファンづくり
事業概要	北部地域におけるテレビ放送及びインターネットサービスの安定供給を図るため、民間の電気通信事業者が実施する情報通信インフラ（光ファイバ網）の整備事業に対し負担金を支出する。		

1　現状・課題

・市が平成21年度までに整備した現行の情報通信インフラは、幹線が光ファイバ、支線及び家庭への引込線はテレビ用ケーブルという構成になっている。
・本インフラは運用開始から16年が経過し、テレビ用ケーブル及び関連機器類が生産終了の動きがある。今後も有線テレビやインターネットサービスの安定供給の確保が必要

2　対象地区



3　整備の内容及び方法

・既存のインフラを更新し、**全ての伝送路を光ファイバで整備**

<インターネット通信速度>	
現行	整備後
下り（ダウンロード）最大160Mbps 上り（アップロード）最大　10Mbps	下り上りともに1Gbps以上

・市は、整備を行う電気通信事業者を公募し、その事業者が行う整備事業に対して負担金を支出(公設公営型から**民設民営型へ移行**)



4　事業費

総事業費（想定）：1,664,000　うち市負担金：523,000　<債務負担行為：R8～10>
電気通信事業者は国補助を活用し整備事業を実施。事業費の一部を**市が負担**する。

内容	市債	一般財源
整備費負担金（光ケーブル整備に係る費用）	404,100	61,900
初期工事費負担金（加入者宅への光ケーブル引き込み及び装置設置に係る工事費用）	46,100	10,900

5　スケジュール

・R9.1～2　：整備を行う電気通信事業者公募、決定
・R9・10年度：整備

（単位：千円）

事業名	【新規】市有施設予約システム再構築事業≪債務負担行為≫	部名	政策推進部・地域共創部
		課名	デジタル推進課・スポーツ振興課外

補正額	0	財源	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源

総合計画	10　行政経営　外	OPENなしせい（市政・姿勢）で挑むまち　外	信頼される持続可能な行政経営　外

事業概要	現在並行稼働している2つの公共施設予約システムを、更新時期を契機に１つのシステムへと統合する。また、新たに市立小中学校体育施設の使用予約等を本システムへ追加することで、利用者の利便性向上を実現する。

1　現状・課題

市有施設に２つの予約システム
仕様が異なるため、利用者に不便が生じている。

1.市有施設予約システム（市立体育館・運動広場、市民活動プラザ等）

2.佐賀市公民館予約システム（市立公民館）

学校体育施設の利用手続が煩雑
○利用者は各学校で直接手続
○鍵の貸出方法や利用対象者の範囲など、学校によって運用が異なる。

2　事業内容

✓２つの予約システムを統合
⇒ 新機能も追加し、利便性を向上
①使用料支払いのキャッシュレス対応
②利用者登録時にオンライン上での本人確認

✓予約システムに市立小中学校の体育施設を追加
⇒ 利用者は一目で施設の空き状況を確認でき、申請も学校に行かずにシステムで完結

✓学校ごとに新たに「スマートキーボックス」を導入
⇒ 事前に送られてくるＱＲコードで鍵ボックスの開錠ができ、事前の鍵の受取が不要に。

予約システムとスマートキーボックスの導入により、市立小中学校体育施設の使用について、**統一的な運用を目指す。**



3　事業費の内訳

＜債務負担行為　R8～R9　39,601＞

	予約システム 市有施設（88施設） 学校施設(122施設)	スマートキーボックス 学校体育施設	計
導入費	**4,566**	**35,035**	**39,601**
運用費(年)	6,270	6,792	13,062

※導入費にはデジタル活用推進事業債（充当率90%）を活用

4　スケジュール

○利用者登録開始　　R10.1頃
○予約受付開始　　R10.3.1（4.1以降の予約）

（単位：千円）

事業名	【新規】こども・子育てＡＩ相談事業«債務負担行為»	部名	こども未来部
		課名	こども家庭課

補正額	0	財源	国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源

総合計画	01　子育て・教育	こどもの幸せを何よりも優先するまち	こどもたちの幸せと健やかな成長を育む環境の充実

事業概要	生成AIを活用して24時間対応の相談体制を構築し、悩みを傾聴しながら必要なサービスや相談窓口につなげることにより、こどもや子育て世帯の孤立を防ぐとともに、妊娠期から出産・子育て期まで切れ目のない相談体制の充実を図る。

1　実証実験（R8.5.1～7.31）の結果

利用者の傾向や、実際のやり取り等を確認するため、３か月間の実証実験を実施。

- 子育て世代の利用が最多
- 市役所等の窓口が空いていない時間帯の利用
- AIのほうが相談しやすいといった声

- 「窓口に行くことができない」人への24時間365日の相談体制の確保
- 「人と話すことが苦手」な人に対する低ハードルの入口

«利用件数»　595件

○利用年代
　30～50代の子育て世代　74%
○利用時間
　閉庁時間帯　49%
○アンケート結果
　AIのほうが相談しやすい　70%
　再利用意向　60%

2　事業内容

不安や悩みをひとりで抱え込まないで、

生成AI相談で、誰かに相談する「はじめの一歩」を踏み出しやすく。

相談をためらう　›　AIに気持ちを話す　›　必要な支援につながる　›



窓口に行く時間がない
人に話すのは苦手
悩みがまとまらない



傾聴で悩みを受け止める
必要に応じて専門窓口へつなぐ
相談に合った支援情報を届ける



気持ちが整理できる
頼れる相談先がわかる
必要な支援につながる



誰もが
必要な支援につながり、
安心して暮らせるまち

閉庁時間も使える　　気軽に相談できる　　頼れる場所がわかる

うまく話せなくても、今の気持ちから。ひとりで抱え込まず、頼れる場所へ。

3　事業費

＜債務負担行為　R8～R10　11,880＞
※重層的支援体制整備事業交付金（国・県）を活用（補助率：5/6）

4　スケジュール

- R9.2～3末
  プロポーザル・業者決定
- R9.4～7末
  契約締結・チャットボット構築
- R9.8～
  運用開始